Ⅱ　魅力ある県立高校づくりの推進

１　普通科及び普通系専門学科・コース

（１）普通科

令和３年３月の学校教育法施行規則等の一部改正により、各高等学校において「三つの方針」（スクール・ポリシー）を定めることが義務付けられました。また、スクール・ポリシーを踏まえた学校運営のため、各高等学校と関係機関等との連携・協力体制の整備に努めることとなりました。さらに、これまで高等学校の普通教育を主とする学科は普通科のみでしたが、その弾力化に向けて「学際領域に関する学科」※1や「地域社会に関する学科」※2の設置が可能になるなど、普通科改革に関する様々な施策が示されています。

前改革推進プランでは、多様な学習ニーズに対応できる総合学科のメリットを生かし、普通科からの転換により、第２次実施プログラムにおいて小金高校に、第３次実施プログラムにおいて幕張総合高校に総合学科を設置しました。また、生徒の幅広い進路選択を可能にし、個性の伸長が図れるよう、第１次実施プログラムにおいて成東高校を、第３次実施プログラムにおいて安房高校を単位制高校としました。さらに、不足する人材育成などを視野に入れ、社会のニーズに対応したコースとして、「教員基礎コース」や「保育基礎コース」、「医療系コース」等を設置しました。現在、普通科設置校は、全日制では 97 校（単独校 71 校、他学科との併置校 25 校、三部制定時制との併置校１校）、定時制では 12 校、通信制では１校です。

「教員基礎コース」については、本県の教員採用選考志願倍率が年々減少しており、令和２年度選考においては小学校で 2.07 倍、中・高共通で 3.67 倍と、全国平均（小学校 2.7 倍、中学校 5.0 倍、高等学校 6.1 倍）を大きく下回っているという状況にあり、今後も、コース設置校の拡充などにより、更なる人材の育成が求められます。

「保育基礎コース」については、保育士及び保育教諭※3において、令和６年度には現在より約 3,500 人程度多く必要と見込まれるなど、保育・幼児教育を担う人材の確保が急務となっています（統計課「指標で知る千葉県 2021」及び子育て支援課「千葉県子ども・子育て支援プラン 2020」より）。現在、「保育基礎コース」を設置した２校では、コース定員以上の選択希望者がいる状況です。今後も、コース設置校の拡充などにより、保育・幼児教育分野における担い手の更なる育成が求められます。

【具体計画の方向】

○　生徒の多様なニーズに対応できるよう、学科間、学校間連携を推進し、教科横断的な学びを導入するなど、教育内容の充実を図ります。
○　国の動向や他県の状況を踏まえつつ、普通教育を主とする学科（学際領域に関する学科、地域社会に関する学科）等の設置について検討します。
○　普通教育を主とする学科の設置に際しては、関係機関及び関係団体との連携協力体制を整備するため、連絡調整を行う職員の配置について検討します。
○　医師、教員、介護従事者等、求められる人材の育成に向けた既存のコースの発展拡充に加え、生徒の将来の職業選択を見据えた新たな学びの導入やコースの設置について検討します。
○　幅広い進路選択を可能にし、個性の伸長が図れるよう、各校の実情等に応じ、多様な学習ニーズに対応できる総合学科や、より一層弾力的な履修ができる単位制高校への転換を図ります。

※１　学際領域に関する学科

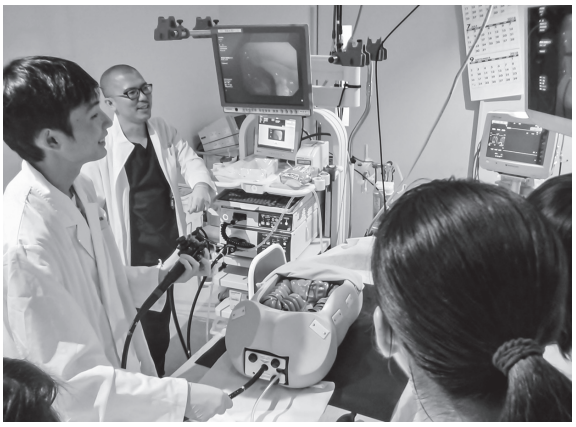
現代的諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0時代の到来に伴う諸課題に対応するため、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科です。

※２　地域社会に関する学科

現代的諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科です。

※３　保育教諭

幼保連携型認定こども園で保育に当たる職員のことで、保育士資格と幼稚園教諭免許の２つの資格を有することを原則とします。



（２）国際科、グローバルスクール

国際科は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することで、広い国際的視野を持った人間の育成を目指す学科です。

前改革推進プランでは、社会の変化や地域のニーズを踏まえ、国際的な舞台で英語を駆使して活躍できる人材の育成を目指し、第１次実施プログラムにおいて柏井高校の英語科を募集停止するとともに「国際コミュニケーションコース」を設置し、さらに第３次実施プログラムにおいて匝瑳高校の英語科を募集停止するとともに「国際関係コース」を設置しました。また、第２次実施プログラムにおいて成田国際高校を「グローバルスクール」に指定しました。

「グローバルスクール」では、グローバル人材育成のための研究開発を行い、成果を上げています。今後はその成果の普及について全県の高校での共有が求められます。

国際関係のコースでは、英語圏だけでなく近隣諸国等の文化や歴史を学ぶことにより、国際的な視野を広げ、国際化が進展する社会に対応できる能力の育成を図りました。今後は、国際関係のコースの学びについて、中学生の理解を更に図ることが求められます。

【具体計画の方向】

- ○　グローバル社会で活躍・貢献できる真の国際人を育成するため、「グローバルスクール」の新たな指定について検討します。
- ○　既設の国際科については、国際社会に必要な資質やグローバルな視点の育成に向けた探究的かつ協働的な学びの更なる推進を図り、教育内容の一層の充実を図ります。
- ○　国際的な舞台で活躍できる能力の育成を目指し、豊かな国際感覚を養う国際教育を更に推進するため、既存の英語コースの見直しも含め、国際関係コースの新たな設置について検討します。
- ○　地域の国際理解教育の拠点となり、小・中学校の国際理解教育を支援します。
- ○　国際教育への理解を深めるために、高校生や教職員が小・中学校等を訪問し、授業を支援するなど、積極的な広報を展開します。

（３）理数科

理数科は、様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成することを目指しています。

前改革推進プランでは、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)※など先進的な理数教育を実践することにより、将来の国際的な科学技術系人材の育成を目指すため、第１次実施プログラムにおいて佐倉高校に、第２次実施プログラムにおいて木更津高校に理数科を設置しました。理数科は、普通科との併置により、現在８校に設置されています。

理数科では、各設置校が大学や外部機関との連携により、先進的な学びや技術について触れる機会を得ています。また、スーパーサイエンスハイスクール指定校では、探究学習に注力しており、大学や外部施設と連携した研究・発表や、海外研修などを実施し、国際的な理数系人材を育成しています。今後は、理数科設置校の理数教育の手法などを県立高校全体で共有する必要があります。現在、理数科の定員充足率は約93%であり、理数科の魅力を中学生に積極的に発信することが求められます。

【具体計画の方向】

○　理数教育の手法について、研究・開発を一層推進し、理数教育の更なる充実を図るとともに、県全体で共有できる仕組みについて構築するため、理数教育拠点校を設置します。

○　ＡＩを実現する数理モデルなどの先端技術に対応できる人材を育成するとともに、教育内容の一層の充実を図るため、大学や外部機関との連携による高大連携事業、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の積極的な活用を一層推進します。

○　既存の理数科については、各地域の状況を踏まえ、総合学科理数系列や普通教育を主とする学科としての理数探究科(仮称)等に改編するなど、その在り方について検討します。

○　地域の理数教育の拠点となり、小・中学校の理数教育を支援します。

○　理科や数学への興味・関心を深めるため、高校生や教職員が小・中学校等を訪問し、授業を支援するなど、積極的な広報を展開します。

※　スーパーサイエンスハイスクール(SSH)

文部科学省が、将来の国際的な科学技術系人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援する事業です。

（４）体育科、芸術科

体育科は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す学科です。現在、併置校１校に設置されています。また、普通科１校に「スポーツ健康コース」を設置しています。併置校の八千代高校では、トップアスリートだけでなく、指導者やスポーツリーダーの育成を目指しており、小学校教諭や中学校、高等学校の保健体育科教諭も多数輩出しています。これらの学校での教育内容の充実を図り、引き続き、本県スポーツの振興や県民の健康の保持・増進に貢献できる人材を育成していきます。

芸術科は、芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す学科です。現在、併置校１校に設置されています。また、普通科２校に芸術に関するコースを設置し、総合学科２校に芸術に関する系列を設置しています。併置校の松戸高校では、美術系の国公立大学をはじめ、芸術系大学や専門学校への進学者を多数輩出しています。これらの学科や系列、コースを設置している高校が中心となり、教育内容や情報発信の充実を図るとともに、将来の本県芸術文化の振興や、創造的かつ持続可能な社会の発展に貢献できる人材を育成していきます。

【具体計画の方向】

○　現有施設・設備を有効活用しながら、探究的、協働的な学びに取り組み、更なる充実を推進します。

○　体育系、芸術系大学等への進学など、様々なニーズを視野に入れ、学科、コース及び系列の新たな設置について検討します。

２　職業系専門学科・コース

（１）農業科

農業科は、農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としています。

前改革推進プランでは、第１次実施プログラムにおいて茂原樟陽高校を本県農業高校のセンター的機能を有する農業教育の拠点校とし、拠点校の他にも、各専門分野の中心校を指定し、各校の特徴を生かした農業教育を展開しています。また、農業に関する各学科について、わかりやすい学科体系及び名称とするため、学習内容に基づいた学科名への変更など学科再構成を行いました。現在、農業科設置校は、単独校１校、併置校 10 校の 11 校です。また、総合学科３校において農業に関する系列を設置しています。

また、拠点校を中心に農業関係高校人材育成組織「アグリサポーターズちば」※1を設置し、各教育機関や行政機関、地域の諸団体等と協働し、人材育成や連携方策等についての情報交換･意見交換を行い、担い手育成や教育の充実に向けて活動しています。

現在、本県では高校新卒者を含む新規就農者を年間 450 人確保することを目標としています（「千葉県農林水産業振興計画」より）が、令和元年度の新規就農者数は 317 人と、目標に達していない状況にあり、今後も更なる担い手の育成が求められます。

さらに、近年の農業構造の変化に伴い農業経営技術は高度化しており、こうした時代の変化に柔軟に対応し、新たな農業の在り方を切り拓くことができる農業経営者の育成も求められています。

【具体計画の方向】

- ○　農業教育拠点校及び「アグリサポーターズちば」の運営を活性化させ、関係機関や地域との連携による活動を更に推進し、地域を支える人材を育成するとともに、各農業系高校の役割に応じた研究・開発の成果を共有し、農業教育の充実を図ります。
- ○　次世代を担う人材の育成・確保やスマート農業※2、ＧＡＰ※3、６次産業化※4等の農業施策と整合した教育を具現化するため、学科間、学校間をはじめ、行政機関及び地域の諸団体等との連携を推進し、教育内容の充実を図ります。
- ○　例えば、近年の農業構造の変化に対応できる農業経営者の育成や、幅広い動物の飼育に関する学びなど、時代のニーズを踏まえた新たなコースの設置や学びの導入を検討します。
- ○　地域のキャリア教育・食育・生涯学習の拠点となり、農業教育を中心として、小・中学校のキャリア教育・食育や地域の生涯学習を支援します。
- ○　農業および農業教育への理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、キャリア教育や食育等の支援を行うなど、積極的な広報を展開します。

※１　農業関係高校人材育成組織「アグリサポーターズちば」

担い手育成や６次産業化といった農業施策と整合した農業教育の推進に留意しながら、県内農業関係高校をはじめとする各教育機関、行政機関及び地域の諸団体等との連携を推進し農業教育の充実を図ることを目的とし、拠点校の茂原樟陽高校を事務局として設置しました。現在、関係団体等８団体、行政６機関、県立高校 19 校が会員となっています。

※２　スマート農業

スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現等を推進している新たな農業のことです。日本の農業の現場では、依然として人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多く、省力化、人手の確保、負担の軽減が重要な課題となっています。そこで、日本の農業技術に「先端技術」を駆使した「スマート農業」を活用することにより、農作業における省力・軽労化を更に進めることができるとともに、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待されます。

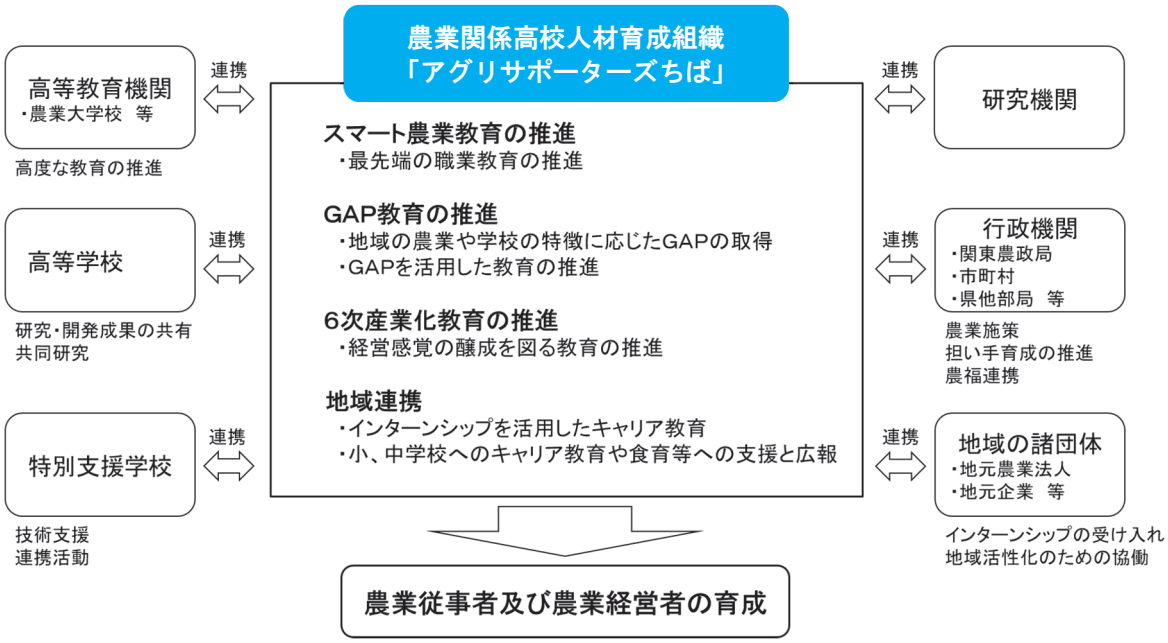
※３　ＧＡＰ

Good Agricultural Practices（農業生産工程管理）の略です。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。農業高校や農業大学校において、生徒・学生がＧＡＰについて学び、自ら実践することで、農業生産技術の習得に加えて、経営感覚を兼ね備えた人材として必要な資質・能力の育成に資することが期待されています。

※４　６次産業化

農業者が、生産だけでなく食品加工や流通・販売にも取り組むことで生産物の価値を向上させる取組のことです。（１次産業×２次産業×３次産業＝６次産業）

《参考資料》今後の農業教育のイメージ



（２）工業科

工業科は、工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としています。

前改革推進プランでは、第１次実施プログラムにおいて、工業教育の手法について、研究・開発を一層推進するとともに、県全体の工業教育の底上げを図るため、千葉工業高校を工業教育の拠点校としました。また、工業教育の質を高め、ものづくりの実践力を育成するため、「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉※」や大学進学を視野に入れた理数工学科を設置しました。さらに、工業に関する学科の設置校のない第９学区に工業を学べる環境を整備するため、第４次実施プログラムにおいて、姉崎高校の普通科にものづくりコースを、天羽高校の普通科に工業基礎コースをそれぞれ設置しました。

工業科では、拠点校を中心として、工業系高校全体のレベルアップを目指すため、拠点校での取組を全県に発信するなど、各研究機関等と活発な意見交換を行っています。また、コンソーシアムの活動などにより、担い手の育成に向け、企業や大学等の外部機関との連携や、生徒が研究発表会などに参加することで、質の高い取組が進んでいます。

今後も、最先端の技術を学び、これからの時代や社会の変化に対応できるものづくり人材の育成が必要であることから、小・中学生やその保護者などに対して、工業系高校の更なる理解促進を図ることが重要です。

本県では、建設業や製造業において、高卒求人数約5,000人に対し就職者数は約2,000人であるとともに、有効求人倍率が常態的に高い状況にあります（p.5《本県の産業分類別求人数・就職者数の比較》より）。現在、工業系学科・コースの定員充足率は約88％であり、毎年、約1,200名程度の卒業生を輩出していますが、そのうち工業系の大学、専門学校等や工業系企業への進路を選択している割合は約65％に留まっています。

今後も、ものづくりの魅力を積極的に発信するとともに、「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」の取組等を一層充実させることにより、工業系分野における担い手の更なる育成が求められます。

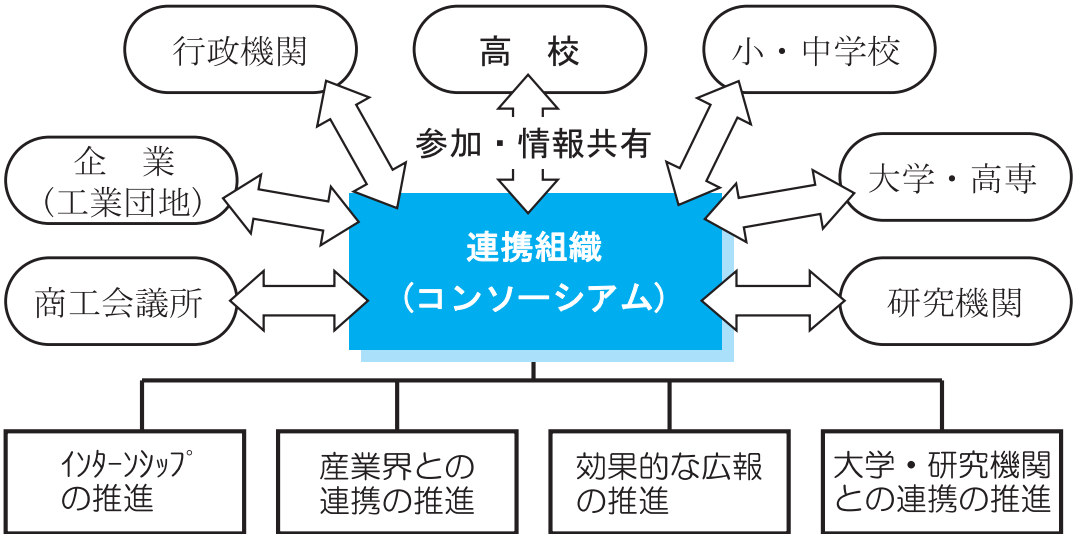
【具体計画の方向】

- ○　工業教育拠点校による活動を更に推進し、社会や時代のニーズに合った教育手法等を県内の工業系高校が相互に共有することで、工業教育の質の向上を目指します。
- ○　コンソーシアムを更に活性化させ、地域や産業のニーズに合った人材の育成に取り組むとともに、ＡＩやロボット技術などの最先端技術を取り入れた実践的な学びを推進するなど、社会の変化に対応し、様々な舞台で活躍できるものづくり人材を育成します。
- ○　地域のキャリア教育の拠点となり、工業教育を中心として、小・中学校のキャリア教育を支援します。
- ○　工業教育への理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、ものづくりへの興味・関心を高めるなど、積極的な広報を展開します。

※　工業系高校人材育成コンソーシアム千葉

企業が有する産業技術、大学や研究所の知識・設備などを生かしながら、産・学・官が相互に連携して、千葉県の高校における工業教育の質を高め、ものづくり実践力を育成することを目的とし、拠点校の千葉工業高校を事務局として設置しました。現在、企業19社、大学・専門学校12校、関係機関16団体、行政6機関、県立高校10校が会員となっています。

《参考資料》連携組織（コンソーシアム）のイメージ



（３）商業科

商業科は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としています。

前改革推進プランでは、第３次実施プログラムにおいて、中学生に分かりやすい名称とするため、学科名を商業科と情報処理科に統一し、教育課程の見直しも含め、多様な学習ニーズに対応しました。現在、商業科設置校は、単独校４校、併置校６校の10校です。また、総合学科２校において商業に関する系列を設置しています。

商業科では、拠点校である千葉商業高校を中心に、商業科設置校と最新の商業教育に関する情報の共有化を図るとともに、各校が地元産業界と連携し、オリジナル商品を開発するなど実践的な学びを推進しています。

【具体計画の方向】

- ○　大学や専門学校等との連携による進学を重視した教育や、高度な資格取得に基づく、公認会計士、税理士、情報処理技術者等のスペシャリストや、予測困難な時代の中で、新たな価値を創造できる起業家精神を有する人材の育成を推進します。
- ○　サービス経済化※1の進展や本県の産業施策に対応し、観光等のコース設置及び科目の開設や、学校間連携を積極的に取り入れるとともに、普通科において商業に関する学びの導入を検討します。
- ○　Society5.0※2時代に対応した教育内容の充実を図り、プログラミングのスキルを活用したアプリ作成等、最先端技術を取り入れた実践的な学びを推進します。
- ○　他の職業系専門学科との連携を推進し、互いに専門性を生かし合い、企画、生産から加工・流通・販売まで協働的な学習を推進します。
- ○　地域のキャリア教育の拠点となり、商業教育を中心として、小・中学校のキャリア教育を支援します。
- ○　商業教育への理解を深めるために、高校生や教職員が小・中学校等を訪問し、授業を支援するなど、積極的な広報を展開します。

※１　サービス経済化

産業構造全体のうちサービス関連産業就業者数の割合が高くなっていくことや、サービス産業以外の分野においてもサービス活動が求められることを指すものです。

※２　Society5.0

①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く、新たな経済社会をいい、具体的には、サイバー空間と現実空間を高度に融合させ、経済的発展と社会的課題解決を両立させることのできる、人間中心の社会のことをいいます。

（４）水産科

水産科は、水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としています。

前改革推進プランでは、第１次実施プログラムにより、国内外の観光産業の意義や役割を理解させるとともに、郷土に愛着と誇りの持てる人材の育成のため、館山総合高校に観光の学びを導入しました。また、地球環境における海洋の重要性に対する認識を深めるため、館山総合高校の海洋科に「栽培環境コース」を、銚子商業高校の海洋科に「海洋環境コース」を設置しました。現在、水産科設置校は、他学科との併置校２校です。また、総合学科１校において水産に関する系列を設置しています。

水産科では、種苗生産など地域のニーズに応えた教育や異校種や他学科と積極的に連携した教育を行っています。今後も基幹産業を支える水産業や海運業、海洋関連産業などの将来を支える担い手の育成が求められるため、諸団体との更なる連携を強化し、海洋関連産業全般をとらえた水産教育が必要です。また、小・中学生やその保護者などに対し、水産教育の理解促進を図るとともに、その魅力を積極的に発信する必要があります。

【具体計画の方向】

- ○　本県の水産業や海洋関連産業の将来を支える担い手を育成するため、地元漁業協同組合・企業、大学・研究機関、行政機関等との連携を強化します。
- ○　海洋関連産業全般を捉えた水産教育を推進し、例えば海洋開発や新たな視点でのコース・学びなど幅広い水産教育の充実を図ります。
- ○　水産業や海運業に必要な海技従事者の養成に向け、実習船の活用と専攻科との連携を強化します。
- ○　本県の基幹産業を支える水産業や海運業における、後継者の確保・育成の可能性を広げるため、柔軟な生徒募集など水産科の在り方について検討します。
- ○　地域のキャリア教育の拠点となり、海洋に関連した教育を中心として、小・中学校のキャリア教育を支援します。
- ○　水産教育への理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、海洋に対する興味・関心を高めるなど、積極的な広報を展開します。

（５）福祉科

福祉科は、福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を育成することを目標としています。

前改革推進プランでは、県全体の福祉教育のレベルアップを図るため、第１次実施プログラムにおいて、福祉教養科設置校である松戸向陽高校を福祉教育の拠点校とするとともに、松戸向陽高校、長狭高校、小見川高校に「福祉コース」を設置しました。また、第２次実施プログラムにおいて佐倉西高校に、第３次実施プログラムにおいて我孫子東高校に、さらに、第４次実施プログラムにおいて犢橋高校に「福祉コース」を設置しました。

学科設置校では介護福祉士の、コース設置校では介護職員初任者研修修了者の資格の全員取得に向け、実践的な学びを展開しています。今後は、小・中学生やその保護者などに対し、福祉の仕事について理解促進を図るとともに、その魅力を積極的に発信する必要があります。

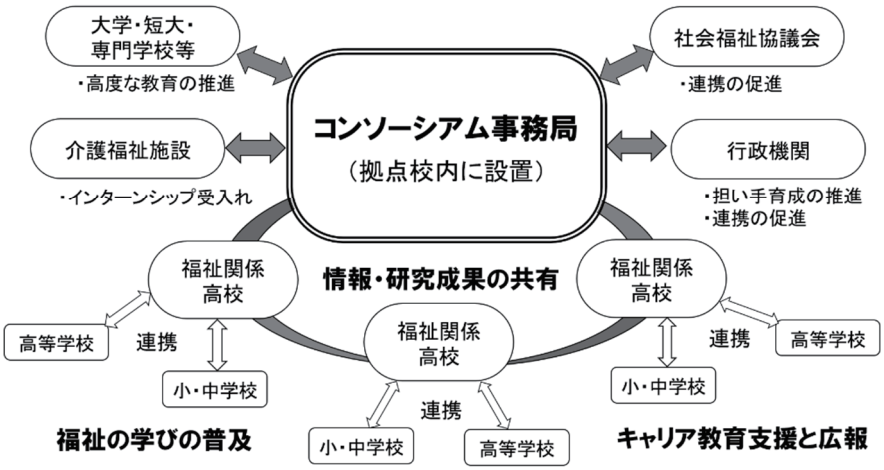
本県では、令和 12 年度には介護人材が令和元年度より約 26,000 人程度多く必要であると予測されています（厚生労働省データを基に推計）。現在、福祉系学科・コースの定員充足率は約 75％であり、卒業生のうち福祉系大学、短大、専門学校や福祉系企業への進路を選択している割合は約 57％に留まっています。今後も、福祉の仕事に対する理解を深めるとともに、福祉学科・コース設置校と外部機関等との連携を通じた教育内容の充実により、福祉系分野における担い手の更なる育成が求められます。

【具体計画の方向】

- ○　地域を支える人材を育成するため、拠点校とコース・系列設置校が相互に連携し、学びや情報を共有することで、県内福祉教育の充実を図ります。
- ○　インターンシップや実習等、職業教育の充実により、福祉教育の質の向上を図るため、拠点校を中心として、福祉系大学・社会福祉協議会・介護施設等の外部機関との連携を一層推進する組織（コンソーシアム）を設置します。
- ○　各地域において、福祉に関する学科、コース及び系列設置校を中心とした学校間連携を推進することにより、学科やコース等の枠を越えて福祉の学びの拡大を図ります。
- ○　地域のキャリア教育の拠点となり、福祉教育を中心として、小・中学校のキャリア教育を支援します。
- ○　福祉教育への理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、福祉の仕事に対する興味・関心を高めるなど、積極的な広報を展開します。

《参考資料》

連携組織（コンソーシアム）のイメージ



（６）情報科

情報科は、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としています。

現在、情報科は、柏の葉高校と袖ヶ浦高校の２校に設置されており、ロボット工学やＩＣＴ機器を活用したコミュニケーションなどの学びを通じて、高度情報通信社会を支える人材を育成しています。

今後の見通しとして、我が国の労働人口及び若年層人口は全体としては減少するものの、ＩＴ関連市場規模の拡大によるＩＴ人材の需要は、先端ＩＴ人材※1を中心として増加が見込まれており（経済産業省「ＩＴ人材需要に関する調査」より）、今後も新たな情報産業の形成に貢献する担い手の育成が求められます。

【具体計画の方向】

○　ＩｏＴ※2及びＡＩを活用した先端技術などにも対応できる人材を育成するため、大学や外部機関との連携を推進し、教育内容の一層の充実を図るとともに、生徒の志願状況や既設校の実態を踏まえ、必要に応じて新たな学科、コース及び系列の設置や学びの導入について検討します。

○　地域のキャリア教育の拠点となり、情報教育を中心として、小・中学校のキャリア教育を支援します。

○　情報教育への理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、ＡＩや先端ＩＴ技術への興味・関心を高めるなど、積極的な広報を展開します。

※１　先端ＩＴ人材

「システムコンサルタント・設計者」、「ソフトウェア作成者」、「その他の情報処理・通信技術者」をＩＴ人材と呼びます。その中で、ＩｏＴ及びＡＩを活用したＩＴサービス市場に従事する人材を先端ＩＴ人材と定義しています。（経済産業省「ＩＴ人材需要に関する調査（概要）」より）

※２　ＩｏＴ

Internet of Things（モノのインターネット）の略で、センサーを搭載したモノ同士がインターネットを介してつながることにより、人が介在しなくてもモノが自動でサービスを提供してくれるシステムのことです。

（７）家庭科、看護科

家庭科は、家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としています。現在、家庭科は、５校に設置されており、他学科や地域などと積極的に連携し、地域と協働した学びの推進を図っています。

看護科は、看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護を通じ、地域や社会の保健・医療・福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力を育成することを目標としています。現在、看護科は、幕張総合高校に設置されており、県内唯一の看護学科として、専攻科との連携を推進し、看護系人材を多数輩出しています。

【具体計画の方向】

- ○　家庭科、看護科については、社会や時代のニーズに対応するため、教育内容の一層の充実を図るとともに、生徒の志願状況や既設校の実態を踏まえ、必要に応じて新たな学科、コース及び系列の設置や学びの導入について検討します。
- ○　地域のキャリア教育の拠点となり、各専門教育を中心として、小・中学校のキャリア教育を支援します。
- ○　各専門教育への理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、被服や食物、看護等に対する興味・関心を高め、積極的な広報を展開します。

（８）総合技術高校

総合技術高校は、複数の職業系専門学科を併置し、学科の枠を越えた学習も可能とすることで専門分野の学習に深みと幅を与え、生徒の興味・関心や学習希望・進路希望などの多様化に対応することを目的としています。

現在は、農業科、工業科の２つの専門学科を併置する茂原樟陽高校と、工業科、商業科、水産科、家庭科の４つの専門学科を併置する館山総合高校の２校を総合技術高校としています。

今後も、併置する専門学科間の連携を一層図り、企画、生産から加工・流通・販売への対応や、新たな産業の担い手の育成など、教育内容の更なる充実が求められます。

【具体計画の方向】

○　既設の総合技術高校については、生徒の興味・関心や学習希望・進路希望の多様化に対応するため、併置する専門学科の学習内容を踏まえ、より一層の学科間連携を推進します。

○　例えば、複数産業の協力が必要となる海洋開発において、工業科と水産科が学科間連携するなど、地域社会や時代のニーズに対応した新たな学びについて研究・推進します。

３　総合学科

総合学科は、普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒が自らの興味・関心や進路希望に応じて、主体的に科目を選択しながら学習できる単位制の学科です。

前改革推進プランでは、既設の４校に加え、生徒の多様な進学希望に対応するとともに、大学卒業後の就業までを見通したキャリアビジョンを育成するため、第２次実施プログラムにおいて小金高校に、第３次実施プログラムにおいて幕張総合高校に進学重視の総合学科を設置しました。また、第４次実施プログラムにおいて、船橋高校及び行徳高校の定時制課程を統合するとともに、定時制課程において初となる総合学科を設置しました。

総合学科では、１年次で「産業社会と人間」（２単位）を履修し、自己の進路への自覚を深めるとともに、生徒の進路ニーズに対応した系列・科目選択に対する助言、就職・進学双方を視野に入れた進路に関するガイダンス機能の充実を図っています。さらに、少人数指導や問題解決型学習などにより、生徒の課題発見・課題解決能力の育成を推進しています。今後も、社会や地域のニーズを踏まえるとともに、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、特色ある系列や科目について検討を進め、魅力ある総合学科の設置を進める必要があります。

【具体計画の方向】

- ○　Society5.0 時代に対応した課題解決力を身に付けた生徒を育成するため、STEAM 教育※の導入や幅広い学びのニーズにも対応できる系列など、多様なタイプの総合学科の設置について検討します。
- ○　多様な学習ニーズに対応するため、地域バランスに配慮し、普通科の転換により、総合学科を新たに５校程度設置します。
- ○　生徒・保護者及び地域のニーズ等を踏まえ、系列や選択科目の見直しなどを行うとともに、２学期制の趣旨を踏まえた単位の半期認定や学年の枠を越えた授業選択の実施など、教育内容の一層の充実を図ります。
- ○　総合学科の特色を生かし、キャリアガイダンス機能の充実により、社会参加への意欲の向上を促すため、定時制高校への新たな設置について検討します。
- ○　地域のキャリア教育の拠点となり、各系列の学びを中心として、小・中学校のキャリア教育を支援します。
- ○　各系列の学びへの理解を深めるために、小・中学校等と相互に交流し、各系列に対する興味・関心を高め、積極的な広報を展開します。

※　STEAM 教育

Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（教養・創造性）、Mathematics（数学）等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育のことです。

４　社会のニーズに対応した教育

（１）単位制高校

単位制高校は、学年による教育課程の区分がなく、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて履修する科目を選択でき、修得単位数の合計が、卒業に必要な単位数を満たせば卒業できるシステムの高校です。昭和 63 年度から定時制・通信制課程において導入され、平成５年度からは全日制課程においても設置が可能となっています。

前改革推進プランでは、第１次実施プログラムにおいて成東高校を、第３次実施プログラムにおいて安房高校を単位制高校としました。全日制高校では、現在、進学指導重点校※1 ７校や総合学科設置校６校を含む 20 校を単位制高校としています。

単位制高校では、多様な選択科目の設定により、進路希望や興味・関心に応じた学習が可能となっています。今後も選択科目の更なる増加と、より一層弾力的な教育課程の構築を図っていくことが求められています。

【具体計画の方向】

○　生徒の学習ニーズに応じて、探究や地域協働の学びによる主体的で質の高い深い学びや生徒のキャリア発達※2 に寄り添う学びの推進に向け、進学指導重点校など新たに３校程度の導入を検討します。

○　多様な選択科目の拡大、ガイダンス機能の充実、卒業後の留学も視野に入れたグローバル人材の育成に向け、２学期制の趣旨を踏まえた単位の半期認定や学年の枠を越えた授業選択の実施など、単位制高校の特性を生かした教育内容の充実を図ります。

○　新たに大規模単位制高校の設置について検討します。

○　単位制高校の魅力や特色を、中学校の生徒や保護者、教員に積極的に広報し、理解を深めます。

※１　進学指導重点校

組織的で計画的な進学指導を推進し、生徒一人一人の学力向上を図り、生徒の目標達成を支援する教育活動を展開することを目的として指定する学校です。

※２　キャリア発達

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程です。

《参考資料》単位制高校の特徴

修業年限	３年以上
学　　期	２学期制が望ましく、学期ごとの単位認定や弾力的な時間割編成が可能
入学（新入学）	教育課程や時間割等の工夫により年度途中（秋）からでも可能
進級・卒業	修得した単位の累積が卒業に必要な単位数を満たせば、卒業が可能 秋卒業も可能だが、３年以上の在籍が必要
教育課程	興味・関心・適性・進路などに応じて科目を選択できる。
その他	未修得科目があっても、他の分野については先の学習ができる。 異学年次の生徒と一緒に学習する場合があり、異年齢集団の中で、人間的な成長を図ることができる。

（２）中高一貫教育校

中高一貫教育校は、生徒や保護者が６年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることにより、中等教育の多様化を推進する学校です。一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指しています。

前改革推進プランでは、第１次実施プログラムにおいて、併設型中高一貫教育校として、東葛飾高校に東葛飾中学校を併設しました。

県内の中高一貫教育校は、併設型２校（千葉中学校・千葉高校、東葛飾中学校・東葛飾高校）、連携型１校（野田市立木間ヶ瀬中学校・二川中学校・関宿中学校・関宿高校）があります。

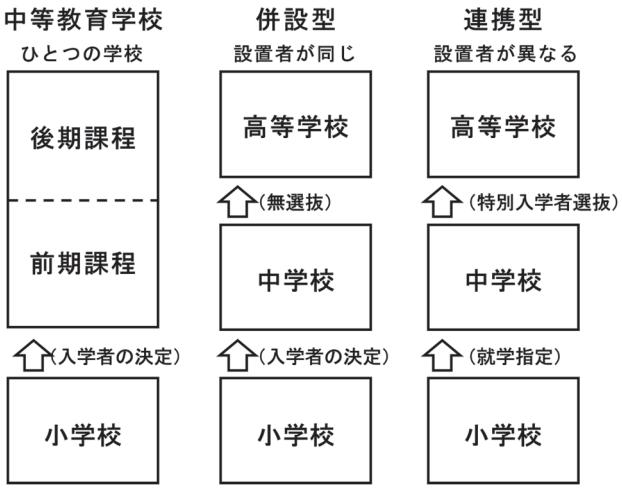
併設型中高一貫教育校では、６年間の一貫教育の中で独自の特色ある教育を実践しており、主体的に学習に取り組む姿勢が身につき、個性や能力の伸長が図られています。今後も中学校と高等学校のより一層円滑な連携を実現し、教育内容や指導方法の更なる体系化が必要です。

連携型中高一貫教育校では、連携先の中学校との間で、授業、生徒会活動や部活動等において定期的に生徒や教職員が交流することで、６年間を通して生徒の成長に寄り添うことができています。今後は、連携を更に活性化させ、生徒の多様な興味・関心に応えるために一貫性のある連携計画を立てるとともに、進路実現に向けたキャリア教育を充実させることが必要です。また、生徒数の減少が続く中、今後の連携型中高一貫校の在り方について検討する必要があります。

【具体計画の方向】

○　既存の併設型中高一貫教育校については、教育内容の一層の充実を図ります。
○　既存の連携型中高一貫教育校については、これまでの成果と課題を踏まえ、連携や学校の活性化方策を検討していきます。
○　中等教育学校も含め、中高一貫教育校については、国の施策や他県の状況を注視しつつ、県内の地域の状況も踏まえ、引き続き研究していきます。

《参考資料》中高一貫教育校の種類



（３）観光・環境・防災に関する教育

前改革推進プランでは、「社会のニーズに対応した教育」の一環として、観光・環境・防災に関する学びの導入を行いました。

「観光の学び」については、地域の自然、産業や文化を観光資源として総合的に学習し、国内外の観光産業の意義や役割を理解させるとともに、郷土に愛着と誇りの持てる人材を育成することを目的とし、第１次実施プログラムにおいて館山総合高校に「観光の学び」を導入し、第２次実施プログラムにおいて鶴舞桜が丘高校（現市原高校）の園芸科に「緑地管理コース」を設置し、地域産業と連携した協働的な学びを展開しています。

「環境の学び」については、海洋環境の学びを更に充実させ、地球環境における海洋の重要性に対する認識を深めさせることにより、環境に対する知識や環境問題の解決に向けて自発的に考え、行動する力の育成を図ることを目的とし、第１次実施プログラムにおいて館山総合高校の海洋科に「栽培環境コース」を、銚子商業高校の海洋科に「海洋環境コース」を設置し、水産業を支える海の環境を学び、守るための知識・技能を習得する場としています。

「防災の学び」については、東日本大震災の教訓を生かし、自然環境や社会環境との関わりを視点に据えた防災教育の推進を図ることを目的とし、第１次実施プログラムにおいて銚子高校に、第３次実施プログラムにおいて市原八幡高校に「防災の学び」を導入しました。導入校では、学校独自教材による授業や、周辺施設、地域を舞台とした防災研修や課題探究を実施し、防災への意識を高めています。

今後は、学びの成果を全県立高校において共有するとともに、社会や地域のニーズも踏まえながら、観光・環境・防災に関する学びの新たな導入について、検討する必要があります。

【具体計画の方向】

《共通》

○　地域との連携を更に深める体制づくりに努め、教育内容の一層の充実を図るとともに、必要に応じて新たな設置について検討します。

○　学びの成果について、全県立高校において共有し、積極的に活用する仕組みについて研究します。

《観光》

○　千葉県の恵まれた観光資源（豊かな自然、歴史的遺産、国際空港、ゴルフ場、マリンスポーツ等）を有効活用し、新たな学びの導入について検討します。

《環境》

○　地球環境問題を自分ごととして捉え、問題解決に向けて行動する力を身につけた持続可能な社会の創り手の育成を目指し、環境学習の更なる充実を図ります。

《防災》

○　昨今の地球温暖化による大雨や台風といった自然災害の増加を踏まえ、地勢、地質、気象等に応じた防災教育の更なる充実を図ります。

（４）地域連携アクティブスクール

地域連携アクティブスクールは、中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲をしっかりと受け止め、地元企業や大学と連携するなど地域の教育力を活用し、明るく活力ある高校生活が送れるようにするとともに、地域とともに歩む自立した社会人として社会に送り出していくシステムを備えた新たなタイプの学校です。

前改革推進プランでは、第１次実施プログラムにおいて泉高校と天羽高校に、本県では初となる地域連携アクティブスクールを設置し、第３次実施プログラムにおいて船橋古和釜高校と流山北高校に設置しました。

設置校においては、学校と地域が協働し、学び直しや実践的なキャリア教育により、確かな基礎学力や社会的・職業的な自立の基盤となる能力・態度を養うとともに、きめ細かい教育相談体制により生徒の成長を支える指導の充実を図りました。こうした取組に対する生徒、保護者の満足度は高く、中学校の生徒、保護者、教員からは、更なる設置について期待されています。

【具体計画の方向】

- ○　地域との多様な連携を進めながら、自己肯定感を育み、自立した社会人の育成に向けたきめ細かな指導を実践します。
- ○　学びのセーフティネットとしてきめ細かい教育相談体制により生徒の成長を支える指導の更なる充実を図ります。
- ○　学ぶ意欲に応える学習指導や、実践的なキャリア教育など、地域連携アクティブスクールの学びをより一層充実するとともに、県内の高校に向けてそのスキルを発信し、共有します。
- ○　地域バランスや生徒や保護者等のニーズを踏まえ、既設の４校に加え、新たに４校程度設置します。
- ○　地域連携アクティブスクールの魅力や特色を、中学校の生徒や保護者、教員に積極的に広報し、理解を深めます。

（５）定時制高校

定時制高校では、従来からの勤労青少年に加えて、全日制課程からの転編入学生や不登校経験がある生徒、日本語を母語としない生徒、特別な支援を必要とする生徒など、多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えています。

前改革推進プランでは、第４次実施プログラムにおいて、生徒の多様なニーズにあった学びが選択できるよう、市川工業高校と千葉工業高校において学科の再構成を行い、木更津東高校において商業科を募集停止し普通科に「商業コース」を設置しました。また、佐倉南高校の全日制の課程を募集停止し新たに三部制定時制の課程を設置し、船橋高校と行徳高校の統合により新たに船橋高校に県内定時制初の総合学科を設置しました。さらに、館山総合高校定時制を通信制協力校に指定し、定時制と通信制の連携を図り、地域に在住する生徒のスクーリングへの出席に伴う負担軽減を図りました。

今後は、生徒の多様なニーズに応じた個別最適な学びを更に推進していくことが求められます。

【具体計画の方向】

○　生徒一人一人の多様なニーズに応じた個別最適な教育活動を展開するため、専門スタッフによる支援体制の充実を図ります。

○　就労支援機関との連携を促進し、就業体験、実務代替※1、資格取得など、学校外の学修※2を活用し、キャリア教育の更なる充実を目指します。

○　多様な生活スタイルに対応した弾力的な学びを提供するため、三部制定時制や昼間定時制など多部制定時制高校※3の設置について検討します。

○　多様な学びのニーズに対応した柔軟な学びを提供するため、単位制の特性を活かした教育内容を更に充実させるとともに、キャリア教育の推進に向けて総合学科の新たな設置について検討します。

○　定通併修※4の一層の充実を図るとともに、定時制高校における通信制協力校の指定や、ＩＣＴを活用した遠隔での面接指導（スクーリング）の導入など、定時制と通信制の更なる連携について検討します。

※１　実務代替

職業に関する科目を履修する生徒が、その科目と密接な関係を有する職業に従事しており、その職業における実務等が、当該科目の一部を履修した場合と同様の成果があると認められるときに、その実務等をもって当該科目の履修の一部に替えることができる制度です。

※２　学校外の学修

在学する高等学校での学習の成果に加えて、学校外の教育施設等における学修や、知識及び技能に関する審査に係る学修、ボランティア活動等継続的に行われる学修など、生徒が主体的に行う学修について、校長が教育上有益と認めるときは、高等学校の単位として認定することが可能となっています。

※３　多部制定時制高校

二部制定時制高校（午前部・午後部又は午後部・夜間部等）や三部制定時制高校（午前部・午後部・夜間部）などを総称したものです。

※４　定通併修

定時制の生徒が通信制高校で、又は通信制の生徒が定時制高校で、一定の科目を履修し、修得した単位を卒業単位に加えることができる制度です。これによって３年間での卒業も可能となります。

（６）通信制高校

通信制課程は、働きながら学ぼうとする青少年を含め、全日制課程、定時制課程に通学する上で困難な事情を抱える青少年に高等学校教育を受ける機会を提供する学校として設けられました。

千葉大宮高校では、入学者選抜・転入学試験・編入学試験を複数回実施し、「いつでも、どこでも、だれでも学べる学校」として、生徒の多様なニーズに対応するため、きめ細かい指導を行い、生徒は自分に合ったペースで学習することが可能となっています。

なお、今日、生徒の生活様式や価値観、学習歴や学習動機の更なる多様化などに伴い、通信制への入学希望者が増加しているという現状にあります。

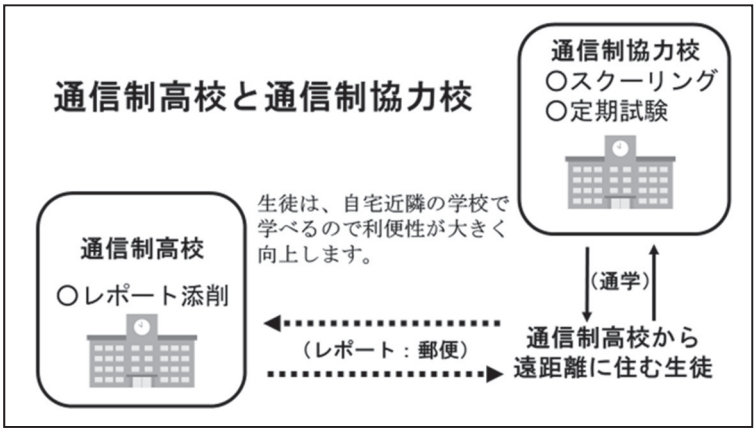
このため、前改革推進プランでは、第４次実施プログラムにおいて、千葉大宮高校に通う生徒の利便性を向上させるため、館山総合高校定時制を通信制協力校※とし、面接指導（スクーリング）や定期試験を実施しました。生徒は通学に対する負担が軽減されただけでなく、少人数による指導により、学習の効果を上げることができました。また、令和元年度には、本制度を利用した最初の生徒が卒業することができました。

【具体計画の方向】

○　通信制高校へのニーズの高まりや生徒の多様化するニーズに対応するため、通信制協力校の更なる拡充を推進します。

○　面接指導（スクーリング）において千葉大宮高校の授業を映像配信したり、オンラインによるレポート提出を推奨するなど、インターネット等の情報通信技術（ＩＣＴ）の効果的な活用を推進します。

○　多様な支援を必要とする生徒に対応するため、関係機関との連携を図り、教育相談や学習及び就職支援など、より充実した対応を推進します。

※　通信制協力校

通信制高校で学ぶ生徒の学習の利便性を図るための制度です。通信制高校から遠距離にある高校を通信制協力校に指定し、生徒がそこでスクーリングや定期試験を受けることができます。